

各基本目標・基本計画の進捗状況について

基本目標 3 未来へつながる人づくり

1 基本目標 3 「未来へつながる人づくり」の総評

基本目標 3 の各取組については、A が 5 項目、B が 6 項目、C が 1 項目という結果でした。令和 3 年度評価と比較すると、自己評価が向上している項目が 4 項目、同様の項目が 8 項目、下降している項目はありませんでした。

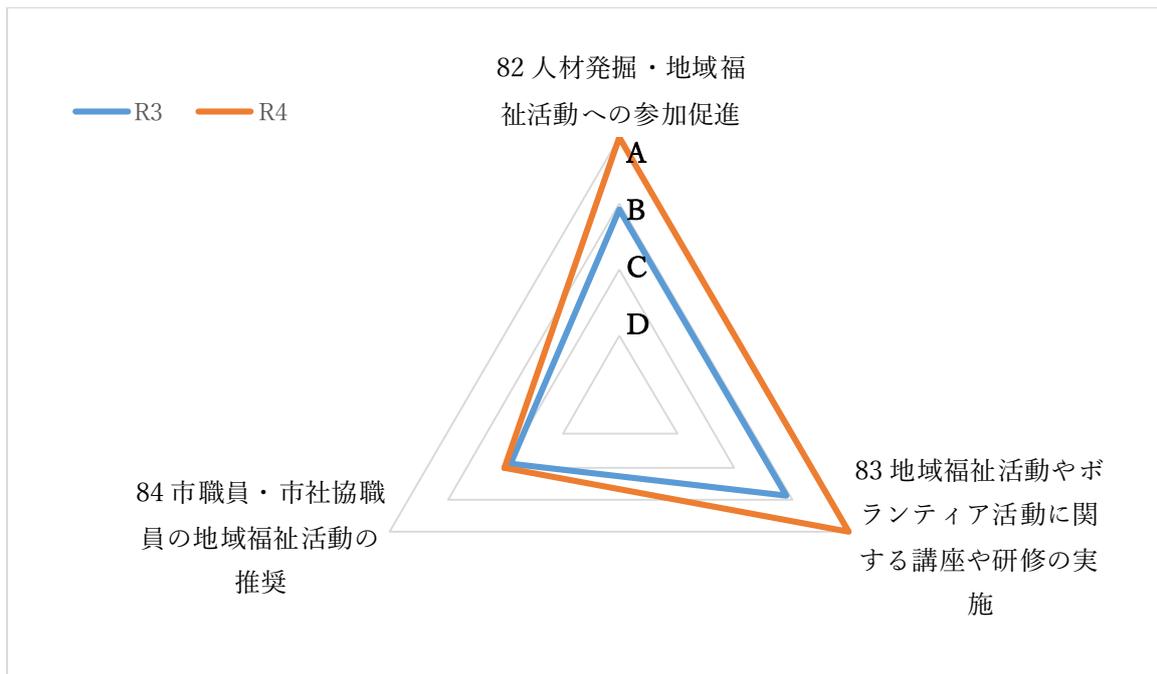
基本計画 (1) 地域の人材発掘・育成は「人材発掘・地域福祉活動への参加促進」、「地域福祉活動やボランティア活動に関する講座や研修の実施」の取組の評価が A 評価に向上しました。「地域福祉活動やボランティア活動に関する講座や活動の実施」では、講座回数、参加者が増加し指標を達成しています。「人材発掘・地域福祉活動への参加促進」では、これまでつながりのなかった個人や団体との協働を図り、新しい活動への発展や地域福祉活動へとつなぐことができました。いずれも指標は達成している一方で、地域福祉活動者の人材不足や固定化、高齢化などの課題は解消されておらず、より一層新たな地域福祉活動者との協働に向けて働きかけが必要と感じています。

基本計画 (2) 福祉従事者の確保・育成ではどの取組項目も令和 3 年度と同様の自己評価という結果でした。全体的に指標を達成している、もしくは達成が見込まれるように取組を進めているところですが、講座の充実や専門職育成などを通じて充実を図る必要があります。

また、基本計画 (3) 福祉意識の啓発・福祉教育の推進では「地域福祉活動の普及啓発」、「各種学校と連携した福祉教育」の取組の評価が A 評価に向上しています。「地域福祉活動の普及啓発」では主に SNS の活用により地域福祉活動の実践を PR しました。今後も情報発信の方法を工夫しながら更に住民や企業など多くの方々に地域福祉について興味、関心をもってもらえるよう働きかけていきます。

「各種学校と連携した福祉教育」については、福祉教育実践事例集の継続発行により指標は達成しており、併せて福祉教育の推進のために小中学校だけでなく高校や専門学校など幅広く福祉教育学習の実践に取り組みました。特にコミュニティワーカーの担当地区においては各小中学校の総合学習に積極的に関わることができました。今後、どのように全市的な福祉教育推進の仕組みづくりを行っていくかが課題と感じています。

3 - (1) 地域の人材発掘・育成



【自己評価の評価方法】

- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

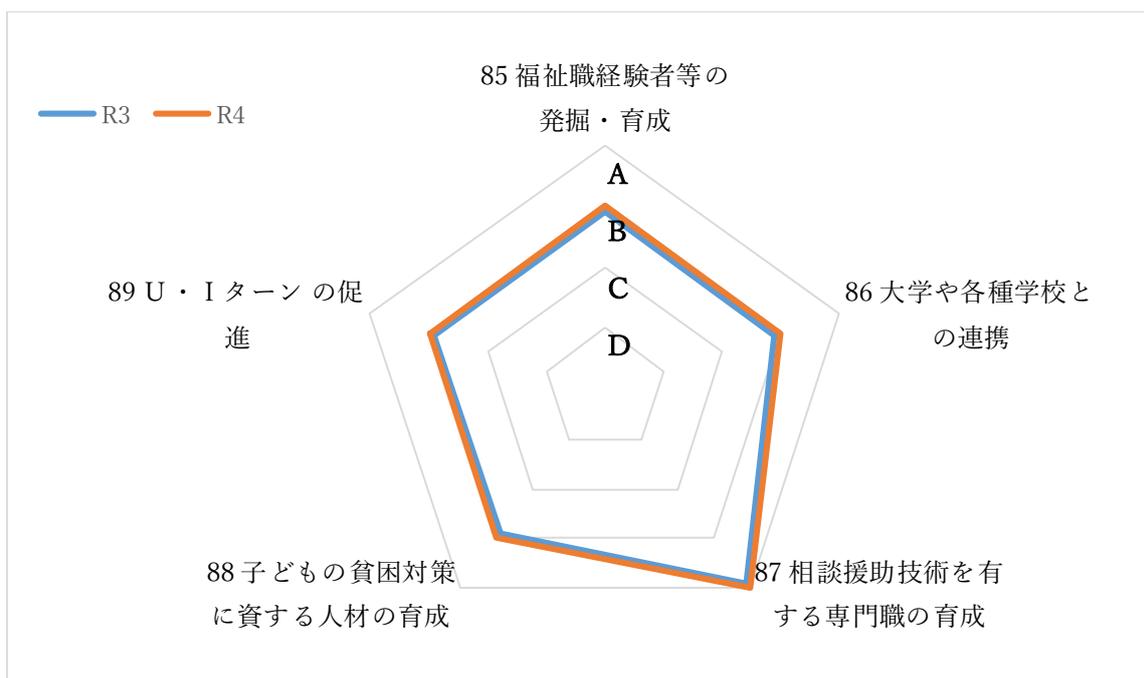
良かった点としては、「人材発掘・地域福祉活動への参加促進」、「地域福祉活動やボランティア活動に関する講座や研修の実施」の取組の評価がA評価に向上したところです。

「人材発掘・地域福祉活動への参加促進」では、これまでつながりのなかった個人や団体との協働を図り、指標を達成していますが、更なる充実を図る必要があります。

「地域福祉活動やボランティア活動に関する講座や活動の実施」では、講座回数、参加者が増加し指標を達成しています。引き続き、ボランティア活動を始めるきっかけづくりや人材育成を進めますが、合わせてボランティアニーズの把握を充実させる必要があります。

一方で、「市職員・市社協職員の地域福祉活動の推奨」の取組については、令和3年度と変わらずC評価であったため、改善が必要です。実施内容としては、地域活動について研修を実施しているものの、実際に地域福祉活動に参加するまでのプロセスを具体的に検討していくことが必要であると考えています。

3 - (2) 福祉従事者の確保・育成



【自己評価の評価方法】

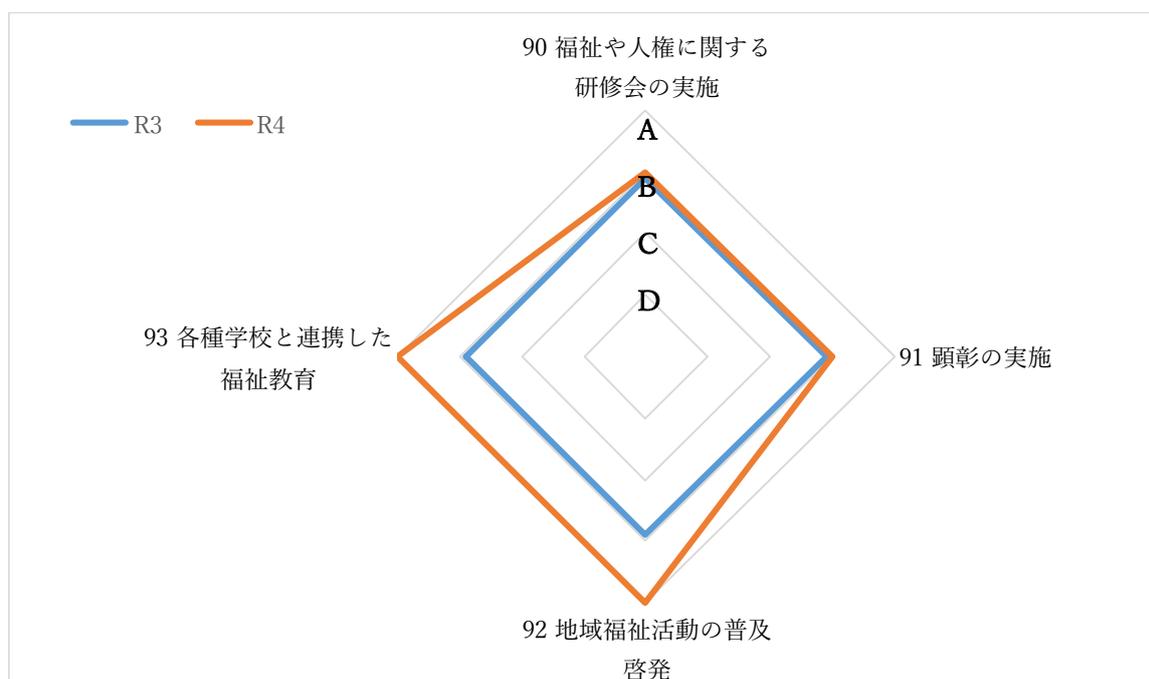
- A：取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B：計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C：指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D：未着手。

【総評】

良かった点としては、「相談援助技術を有する専門職の育成」の取組が、令和3年度と同様に A 評価でした。この取組では、新たに研修を実施し、指標以上の受講者を募ることができたため A 評価となりました。今後もこの評価を継続していくために、市民の方の受講者数の向上を目指して取り組んでいきます。

そのほかの取組については、令和3年度と同様に B 評価でした。特に、「大学や各種学校との連携」の取組では、実習生の受け入れについて、市及び市社協で積極的に受け入れている状況です。一方で、社会福祉士養成実習施設実習指導者の資格をもつ市社協職員を増員する目標については、目標数の達成には至りませんでした。今後は、実習指導者の資格を保有する職員が増えるよう努めていきます。

3 - (3) 福祉意識の啓発・福祉教育の推進



【自己評価の評価方法】

- A : 取組の指標を達成した。または、顕著な取組がある。
- B : 計画期間内に指標を達成見込みである。概ね順調に進んでいる。
- C : 指標を一部達成している。または、取組は行っているが不十分である。
- D : 未着手。

【総評】

良かった点としては、「地域福祉活動の普及啓発」、「各種学校と連携した福祉教育」の取組が A 評価に向上したところです。「地域福祉活動の普及啓発」では、従来の広報誌発行だけでなく、SNS の活用に積極的に取り組んだことで指標を達成しています。

「各種学校と連携した福祉教育」では、小中学校だけでなく高校や専門学校など幅広く福祉教育学習の実践に取り組み、指標を達成できました。福祉教育の実践に関わる中で福祉教育の重要性を再認識しているところですが、全市的な福祉教育推進の仕組みづくりにまでは至っておらず、今後の課題と感じています。

「福祉や人権に関する研修会の実施」では各地区での小地域懇談会や地域福祉活動に関わる研修会に加え、「人と地域とつながる研修」を実施し、一般市民や地域福祉活動者、福祉専門職など様々な立場の方々に実践的な研修を行いました。